令和２年

１月の普及活動状況

ダイジェスト版

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課（農業革新支援センター）の取組～

岐阜県農政部農業経営課

２０２０年１月の普及活動状況ダイジェスト版

多様な担い手づくり

岐阜農林■スマート農業　ほ場生産管理システムでＶ溝直播作業を計画

【プラウ耕を使った直播ほ場の準備作業】

瑞穂市の(農)巣南営農組合では、引き続き令和２年度も国のスマート農業実証プロジェクトにて、Ｖ溝直播栽培などによる輸出用米の超低コスト生産に取り組む予定である。

１月から、Ｖ溝直播予定の水田でプラウ耕や鎮圧などほ場準備が始まり、農業普及課は営農組合に導入されたほ場生産管理システム「アグリノート」を使って、営農組合やＪＡぎふと作業計画の打ち合わせを行った。

令和２年度は、組合全体で65haものＶ溝直播を実施する予定であり、今からの計画的なほ場準備が重要であることから、農業普及課ではＪＡぎふと連携してアグリノートを利用し、農作業の進捗確認や適期は種に向けた指導を行う。

西濃農林■スマート農業　西濃地域スマート農業研究会（全域）

【第１回研究会】

西濃地域におけるスマート農業の取り組みを推進するため「西濃地域スマート農業研究会」を設置し、１月 17 日に西濃総合庁舎にて、規約決定を含む最初の会合を開催した。

本研究会はスマート農業推進を担う市町、ＪＡ、県機関の担当者および農業者代表で構成し、必要な情報を共有することを目的とする。今後は技術・製品、管内で実施される各種実証や現地視察のほか、国や県の関係事業についても情報共有を行う。

農業普及課は事務局として本研究会を運営し、農業生産現場の多様な課題に対応しながら、円滑にスマート農業の取り組みが推進されるよう支援していく。

中濃農林■美濃市採種組合　法人化に向けて臨時総会が開催

【臨時総会の様子】

美濃市採種組合は、高齢化により組合員数が減少していることから、組織維持のため、発起人会を立ち上げて法人化に向けた検討を進めている。

発起人会では、令和２年４月の法人設立に向けて組織の体制づくりや規約づくりを進めてきたが、これまでの決定事項について組合員の承認を得るため、１月 21 日に臨時総会が開催された。臨時総会には「出資金の金額」「発起人の人選」等について議案が上程され、すべて承認された。

今後は規約の作成や法人登記に向けた準備を行う予定にしており、農業普及課も関係機関と連携して法人設立を支援していく。

郡上農林■青年農業士　農業出前講座を開催

【出前講座の様子】

郡上地区青年農業士連絡協議会(会員７名)が、郡上市の農業の現状、農業の魅力等を若い世代に知ってもらうために、１月14日に郡上高校で「農業出前講座」を実施した。

当日は、青年農業士の河合研さんが講師を務め、園芸科学科21名を対象に、郡上市の魅力、自身の就農に至る経緯、現在の経営内容、地域との関わり等について説明した。生徒からの質問には、自身の経験を踏まえてアドバイス等を行った。

農業普及課は、今後も関係機関と連携を図り、同会の活動支援を続けていく。

可茂農林■若手農業者　土づくりセミナーを共催

【土づくりセミナーの様子】

　みのかもファーマーズ倶楽部は、可茂管内の若手農業者の任意団体であり、毎月の定例会の際に、講師を招いて勉強会を行うなど、研鑽に取り組んでいる。

　今年初となる１月６日の定例会では「土づくりセミナー」を行い、会員の６割以上となる 13 名が受講した。開催には、農林水産省の土づくり専門家派遣事業を活用し、講師にＤＧＣ基礎研究所の内山土壌医を招き、土壌の基礎分野を中心に２時間の講義を受けた。質疑応答も活発に行われ、講義後のアンケートでも、大変役に立ったと好評だった。

　農業普及課は、今後もみのかもファーマーズ倶楽部など、若手農業者の活動を支援していく。

恵那農林事務所■指導農業士、青年農業士　恵那農高出前講座を開催

【出前講座】

　１月10日、恵那農業高校の１～２年生に対し、農業者の経験や考え方、地域農業の現状を知る「出前講座」を開催した。

　この講座は、次代を担う農村青少年の育成を図るため、県指導農業士東濃ブロック連絡協議会及び東美濃青年農業士会の事業にも位置付けられた取り組みで、この日は指導農業士２名、青年農業士１名及び新規就農者１名が講義を行った。

　講義では、「やりがいのある楽しい農業の秘訣」をテーマに、就農に至った経緯から現在までの道のり、農業の魅力や家族・地域との関係、夢などについて、各々の立場から今後社会に出ていく生徒達へのエールも込めた思いが語られた。出前講座は、12月には県農業大学校で行い、２月には阿木高校でも行う予定である。

　農業普及課では、地域担い手リーダー等と連携し、一人でも多くの生徒達に将来の職業として農業を選択してもらえるよう今後も取り組んでいく。

下呂農林■新規就農者　トマト新規就農者に対する個別面談を実施

【個別面談の様子】

　下呂地区担い手育成総合支援協議会では、農業次世代人材投資金を活用しているトマト新規就農者を支援している。

　決算時期を迎え、１月７日から６日間にわたり、ＪＡひだ益田営農センター並びに同竹原出荷場において、17 名を対象に本年度２回目の個別面談を実施した。

　下呂市、ＪＡひだ、農林事務所の担当者が出席し、就農計画と本年度の実績を比較し、計画の達成状況を確認した。

　本年度のトマト生産は、長雨や台風の影響もあり、多くの新規就農者が 10 アールあたりの収量（単収）目標を下回った中で、栽培１年目から下呂地域の平均単収を大きく上回る実績を達成した新規就農者もいた。

　農業普及課は、個々の経営における課題を明らかにし、次年度に向けた改善方向について指導・助言を行った。今後も関係機関と連携し、新規就農者の経営確立・向上に向けた支援を継続する。

飛騨農林■飛騨名農会　冬季セミナーを開催

【値打ちを付けて消費拡大！】

　１月 20 日に高山市役所において、冬季セミナーを開催し、飛騨名農会※会員および関係者 26 名が参加した。最初に地元県議から「岐阜県の農業、飛騨の農業に関する取り組みと課題、今後の展開について」と題し、さらなるブランド化や普及指導員への期待等について講演をいただいた。

　その後、ほうれんそうの調製機導入効果・共同調製作業場実証や、人材確保のためのワーキングホリデー・外国人の受け入

れについて、県（農業普及課・農産園芸課）、高山市、ＪＡから情報提供があり、各機関における取組状況について理解を深めた。
　農業普及課では、引き続き飛騨名農会の組織活動を支援し、産地の維持・発展にも積極的に取り組んでいく。
　※名農会＝飛騨地区の農業を考える農業者の会

革新支援センター■担い手　みんなが活躍する農業・農村フォーラムの開催

【講演の様子】

　１月16日、多様な担い手が支え合い活躍できる農業をめざし、「みんなが活躍する農業・農村フォーラム」を開催した。
　今回のフォーラムは、誰もが働きやすい環境整備にむけ、女性や高齢者等が活用できるスマート農業技術に焦点を当てて開催した。
　(株)ドコモから「ＮＴＴドコモ・アグリガールの農業へのチャレンジ」と題した講演の他、アシストスーツ等のスマート農業器材について、情報提供を行った。講演では、農業知識がほとんどない女性社員が、スマート農業を切り口に農業現場飛び込み、スマート機器の導入に繋げている事例が語られた。
　(株)ドコモがスマート農業に関わっていることを知らなかった参加者もあり、アンケートでは「事業の内容について興味深いものが多かった」「農家、官公庁、ＪＡ、ＩＴ業界などみんなが手を取りあえば農業が変わる可能性を感じた」といった感想が寄せられた。

売れるブランドづくり

揖斐農林■茶　ＪＧＡＰ内部監査を全契約農家で実施

【緊張感ある内部監査】

　（農）桂茶生産組合ではＡＳＩＡＧＡＰ管理点と適合基準に則り、内部監査資格を持った組合役員による内部監査を年１回実施している。全契約農家 32 軒の農薬･肥料の取り扱い状況、書類の整備と記録状況を確認･指導するもので､本年は１月 14 日から 22 日まで行われた。組合では３月上旬に外部審査を実施することにしており、契約農家はこれに向けて内部監査で受けた指摘事項の是正を行う。
　農業普及課は監査方法の事前打ち合わせ、監査初日に行われたシャドー監査※（監査方法の実地検討）に加わり、農薬の適正使用等、重点的に確認すべき事項等について助言を行った。
　※シャドー審査＝「有資格者と一緒に審査を行うこと」かつ「有資格者と同じ審査結果を出せること」

東濃農林■６次産業化　農産物の商品開発研修会を開催

【研修会の様子】

　東濃農林事務所では岐阜県６次産業化サポートセンターと連携し、1 月 24 日、瑞浪市総合文化センターで、「農産物の商品開発研修会」を開催した。研修会には、農産物の加工や販売を行っている、あるいは志向している東濃地域の農業者や関係機関などの 24 名が参加した。
　岐阜県６次産業化プランナーの横山順子氏を講師に、「買い手が欲しがる商品が売れる商品」をテーマとしてワークショップを交えた講演があり、出席者は、事例を通して売れる商品をつくるためのポイントとその方法を学んだ。
　東濃地域では、直売所などで独自の農産物の商品を販売する農業者も多く、出席者からは、自らの商品を細かく見直して特徴をアピールできるようにしたいなどの感想が聞かれ、今後、商品の開発やブラッシュアップにつながることが期待される。